

豊かな里山 次代へつなげ!

## 【主な記事】

- 1 面 県道高知本山線完成間近  
2・3 面 新事業に挑戦、  
水質調査結果  
4 面 クロスワードパズル解答、  
久重 natural チーム活動報告、  
久礼野東川さん叙勲受章

# 久重地域連携協議会 ニュース

12月1日久重人口  
世帯 人口  
全 体 494 1023  
(-1) ( 0)  
久礼野 140 298  
重 倉 354 727  
( )内は前月との比較

—第63号—

2025.1.25発行  
発行責任者:林照男  
編集:情報部会  
高知市重倉 1596-134  
電話 090-4501-3190

ホームページ:「久重連携」で検索ください。



## 峠から眺める街は 輝く宝石箱



撮影:山本寛子情報部員  
～新道からの眺望～

### 未来へ続く 新たな道

県道高知本山線の拡幅工事が完成が近づいています。新年1月7日の午後以降、工事途中の新道へ誘導されてドキドキした人が多かったのではないのでしょうか。車を待避していた急カーブの旧道から、市街地を望むゆるやかなカーブとなりました。

「あの頃は怖かった」と語るのは35年前学生時代に県道高知本山線の拡幅工事に出合った57才の地域在住の方。今は竹やぶや雑木が生えている所、県道のあちこちの待避所が道だったと。今ほど通行量はなかったとはいえ、道はデコボコ、道はくねくね一車線…。一車線?対向車が向こうから来たと気付いた時は来た道を戻り回避場所までバックする。運転に慣れない人はエンストもあったとか。本当に県道だったの?と思う話がぼんぼん出てきました。先人は何年もかけて山を切り開き、くねくね道をつけ、車が通れる「道路」を作ってきました。

久重地域から見る市街地の夜景は“光の魅力”であると、『久重のコミュニティ計画』冊子に掲載されています。街の光がまぶしくまるで美しい宝石箱のようです。昼間の市街地は太平洋まで望め、晴れた日には水平線がくつきり。浦戸湾に浮かぶ船が動く様子も。筆山より海の方が高く見える不思議な眺望!標高300mの空気が澄んだ久重からは高知市の天候の変化も手に取るように感じられます。

2025年、またひとつ安全への新たな道が開通する節目の時を迎えます。同じ時、同じ時代をみなさんと感じながら、久重地域の新たな未来へ続く道となり、次代へつなぐ一歩になることを願います。

# 集落支援員を久重地域に配置

久重地域連携協議会は、2月開始を目指して二つの新補助金事業を申請することにしました。一つは小さな集落活性化事業、もう一つは高知市訪問型B事業で、連携協議会内にそれぞれの事業部会を設置しました。また、事業推進のコーディネーターとして集落支援員が久重地域に配置される見通しとなりました。

補助金交付が決まれば、それぞれの事業を通じて里山の蘇生と創生をめざし、また支えあいの久重地域域共生社会の推進に取り組みます。そして、久重地域の共通目標である「豊かな里山 次代へつなげ」に向かって新たな一歩を踏み出します。

## ◆小さな集落活性化事業◆

### 里山の蘇生・創生と共生社会をめざす

#### ＝集落支援員の配置＝

集落支援員は、3集落の活性化を図るコーディネーターとして、土佐山地域振興課に配属されます。身分は高知市会計年度任用職員で、任期はR7年度末まで。R8年度から久礼野、久礼野団地への横展開事業が継続されれば、さらに2年度間雇用が継続されます。

小さな集落活性化事業は、2年度間のモデル事業で今年度が申請の最終年度になっています。

申請には、集落支援員の配置が必須で、それについては市が準備を進めています。補助金は人件費を含めて2年度間で一千万円。

#### 3集落でスタート

事業は、集落が実施主体となり、久重地域は入定、重倉、緑ヶ丘団地の3集落で開始し、状況を見てR8年度からは久礼野、久礼野

#### ■里山の現状・課題・取り組み

##### 実態調査をもとに様々な挑戦を

事業の導入にあたり、役員会では地域の現状について話し合い、次のような懸念を確認しました。

- ① 農業の後継者が不足し、耕作放棄地が売却され、土砂の埋立地となったり、廃棄物の投棄等が行われ河川への汚水、泥水の流入。
- ② 管理されない宅地、竹林が整備されないまま増加し里山としての景観の破壊。
- ③ イノシシ等の害獣被害の増加。

#### 里山4つの懸念

地域の産業である農業が成り立たなくなり、農業後継者が今以上に減少。

#### 久重タツシユ村計画

地域の現状をふまえ、新事業では次の活動が必要と考えています。

- ① 放置された空家、宅地、農地、竹林等を調査し、所有者・管理者の確認。
- ② 所有者・管理者に適正な管理の依頼。または、地域での管理の代行。
- ③ 農業移住者の受け皿となる農地について土地所有者との調整。
- ④ 非農家住民による作物のオーナー制度等農業参加の促進を図る。農業への理解、住民交流の場として休眠地を耕作可能な状態に移行する取り組み（久重タツシユ村計画）
- ⑤ 耕作放棄地を使った里山らしいさまざまなイベントの開催。
- ⑥ 新たな久重ブランド作物の生産試験の実施。



久重地域では耕作放棄地や竹林が我が物顔ではびこる景色が増えています。入定地区でも写真の左右に連なり里山の原風景をかもしていた棚田が荒れ果てた休耕地に変わっていました。入定では、つい数年前に田んぼを耕すことがなくなったと聞きました。里山を蘇らせ、次代へつなげていくための活動を手遅れになってしまわないうちに始めなければとの思いが募ります。(=写真：林)

#### オレンジダイヤル

新事業の導入により、集落支援員が勤務時間内に携帯電話(オレンジダイヤル)を携帯するようにし、常設体制が可能になります。

#### 生活支援ボランティアの活躍

キャッチした要望やお困りごとは、ちよつとしたものについては生活支援ボランティアの活動で解決を図り、経済的困窮や病気などその他については、これまでどおり連携協議会が行政や専門機関につないで解決を図っていきます。

電球の交換など高いところの作業、家具の移動など重たいものの搬送、剪定・草刈りなど危険な作業など高齢者にとっては支援を求めたくなるちよつとしたお困りごとは生活支援ボランティアの活躍で解決しているというのがこの事業の目的となっています。



小さな集落活性化事業

# 2つの新補助金事業に挑戦!

高知市訪問型B事業

連携協議会では、久重福祉事業所を立ち上げ「高知市訪問型B事業」を実施すべく補助申請などの準備を進めています。

B事業は、「身体介護を伴わない概ね30分程度のちよつとしたお困りごとの生活支援」を行う事業です。

#### 高知市訪問型B事業開始へ!

##### 生活支援ボランティアが

##### ちよつとしたお困りごとを解決

認定者は十数人です。生活支援を行ったボランティアには、支援先が補助対象者であるかどうかに関わりなく、Ecoカードなどに交換できる1

回につき2ポイント(200円相当)が付与されます。

まずは、福祉事業所の開設と生活支援ボランティアの募集が急がれます。ボランティア募集の際には積極的に応募していただくよう心がけていきます。



#### ▼久重地域共生社会

##### 生活支援ボランティアが動光源

##### 人口減少・高齢化

久重地域にはもう一つ、人口減少と急激な高齢化の進行という深刻な現状があります。

豊かに安心して住み続けることのできる久重地域であるためには、支えあいの地域(久重地域共生社会)づくりが不可欠です。

#### 久重福祉事業所

そのため、2月から久重福祉事業所を設立し、生活支援ボランティア活動を基軸にした生活支援の取組

みを本格的に開始します。

福祉事業所の事業は、小さな集落活性化事業として高齢者全般の生活支援に取り組みますが、そのうち介護保険事業の要支援者を対象にした補助事業である高知市訪問型B事業にも取り組むための補助申請を行うようにしています。

支えあいの久重づくりは住民の要望やお困りごとをキャッチすることから始まります。そのため、オレンジポストを設置しました。回収が月2回のため、常設の方法はないか模索してきました。



# ニューズ62号の久重クロスワードパズル解答

久重地域連携協議会ニューズ62号「新春お年玉クイズ」には60通の応募がありました。新年1月の久重自主防災連合会役員会において、正解者の中から厳選なる抽選を行い、10名の方に千円相当の商品券を発送させていただきました。クロスワードのこたえは「共生社会」。すべての人が互いを認め、敬い、支え合いながら生き生きと暮らすことができる社会を目指し、今年もみなさんと力を合わせて頑張りましょう。

## きょうせいしやかい



さ	か	も	と	り	よ	う	ま
と			よ		こ	た	つ
や	な	せ	た	か	し		ぼ
ま	し	ん			ま	さ	つ
		き	の	こ		か	く
た	い	よ	う		ひ	あ	り
な	え		み	さ	ん	が	
	す	い	そ		と	り	お

## すいほうそうこうしょう 瑞宝双光章 教育功労 東川 美知子さん(久礼野) 令和6年秋の叙勲 おめでとうございます!

2024年11月3日付 秋の叙勲受章者が発表され、高知市久重地域から東川美知子さんが受章されました。叙勲とは、国から授与される勲記(証書)・勲章を受けること、国や公共のために各界功労のあった方に対して贈られる名誉ある章。東川さんは教育功労を受けられています。東川美知子さん、16年前小学校の校長先生をご退職され、現在は教科研究センター(高知県教育センター)に訪れる現場の先生のアドバイザーとして楽しい授業づくりのお手伝いをされています。また地元久重小学校の子どもたちの学びのサポーターとしていつも優しいまなざしで学習支援と豊かな情操を育てていただいております。

【東川さんにインタビュー】…「仕事の仲間、地域の方、保護者…たくさんの方といっしょにこの仕事をさせてもらって感謝しています。なんと言っても子どもたちには授業のおもしろさ多様な考え方を教えてもらえていつも驚くばかり。やっぱりこの仕事が好きと思わせてもらっています」受章を聞いたパートナーのトービアンさんは国からの授与を大変驚き喜んでおられたそう。「受章は家族トービアンをサポートのおかげ。大変感謝しています」と美知子さん。「常に研究し続けたいけど時間がかかるようになってきた。何ができるか模索中。新しい事に挑戦したい」お人柄があらわれるステキな笑顔が印象的でした。



## 久重 natural チーム 活動報告



久重地域を歩いて、春の七草の野草探しに、今年も子どもたちが集まりました。数年間地域の方に教わりながら採取してきましたが、今回はそれぞれの野草の好む生息場所を確かめながら進みました。今年度、スズナ(カブ)とスズシロ(ダイコン)は、秋に学んだEM菌の土づくりで育てました。収穫した野菜はどれも甘くておいしかったです。その後、羽釜で炊いた七草がゆをみんなでいただきました。

## ~第96回 高知市民の大学 久重 natural チームが講師に!!~

講義テーマは「知ってもらいたい優れた活動」「いかにして自然の恵みを後の世代に残していくのか?—改定された生物多様性こうち戦略—」

久重 natural チーム発足以降、地域の「人の魅力」に触れた7年間の取り組み、里山保全活動や里山体験、久重のまちづくり計画策定会議への参加、久重 youth 誕生秘話など…久重の魅力子ども視点から、思う存分伝えてきました。久重地域を代表した発信です。発表慣れをした久重 natural チームの子どもたちは、おじることなく堂々と主体的に発表していました👏



**編集後記** …○子や孫たちが年末から順次帰省し今年も賑やかなお正月でした。そしてみんなが帰り少し寂しくも感じますが、それよりホッとしているのが本心。やつと夫婦二人の正月が来ました。(イツコウ)

○1月も早くも終わりました。行く(1月)逃げる(2月)去る(3月)とはよく言ったものです。みなさん、時間に余裕をもって動きましょう!(健康悠母)○連携協は、今年から二つの新事業に挑戦。里山の蘇生と創生、そして共生社会。次代につなげる取り組みに胸躍る(リン)○あつという間にお正月も終わり、さて次は久重コミュニティカレンダー制作だ!各団体さんから来年度の予定が集まってくるとワクワクします♪(ひろつちゃん)○あんなに暑かった夏が過ぎ、1月中旬は寒波の襲来にアタフタしたのもつかの間。2月4日は立春📅暦の上ではもう春か…と思いきや、何と🐞今年の立春は2月3日だとか!よって2月2日が節分となるそう。久重保育園の豆まきに来てくれるかなあ。おにさんお忘れなきよう(スノー)